

東地区管内りんごの肥大状況は、ふじで6.9cm、王林で7.2cmとなっており、平年を上回っている状況です。着果量が多い園地が散見されるため、今一度、見直し摘果を実施するようにしましょう。
気象庁発表の1か月予報では今後も高温が続くと予想されていますので、日焼け果発生防止のため、徒長枝整理や支柱入れ等には、十分注意するようにしましょう。

1. 肥大状況

(cm)

区分	地域	年度	つがる	ジョナ	王林	ふじ
JA 生育観測圃	薬師堂	本年	7.5	7.3	7.4	7.3
	狼森		7.4	7.5	7.5	7.0
	森山		7.9	6.9	7.3	7.0
	駒木		7.9	6.9	6.9	6.4
	碓ヶ関(古懸)		7.2	7.1	6.7	6.8
	JA管内全体	7.6	7.1	7.2	6.9	
		平年	7.1	6.8	6.3	6.1

2. 早生種の着色管理

- 着色管理や支柱入れは、果実の温度が上昇した午前10時頃から午後3時頃に実施しましょう。ただし、前日の夜温が極端に低い日や、日中の温度が高温となる日は、時間に限らず控えましょう。
- 落果防止剤(ストップール液剤)の早期散布は絶対にやめましょう。早期散布を行うと、食味不良、着色難、軟質果、油上がりなどの原因となります。
- 葉摘みを行う場合は、ストップール散布5日後頃を目安に陽光面の着色を確認してから始めるようにしましょう。葉摘みはツル元を中心に行うようにし、果実に付着している葉を摘み取る程度にしましょう。強すぎる葉摘みは日焼け果や果実品質の低下の原因となります。また、最低気温が下がらず高温が続く場合には、玉回しを中心とした着色管理(葉とらず)に切り替えるようにしましょう。

【中生種に対する落果防止剤の散布】

昨年の記録的な暑さにより中生種の収穫前落果が多く発生しました。本年も長期予報では高温になることが予想されます。収穫前落果が見られたら中生種に対する落果防止剤の散布をしましょう(ヒオモン水溶剤2,000倍)。

品種	散布時期	使用方法
紅玉・世界一	収穫14日前頃	倍数：2,000倍 1,000 に5袋(100g×5) 使用時期：収穫21日前～4日前 単用散布・展着剤不用 散布量：300～600 /10a
トキ・ひろさきふじ(早生ふじ) ジョナゴールド・シナノゴールド	異常高温による 落果が見られたら散布	

有袋ジョナの落果については、袋内で発生する高温障害のため、落果防止効果は期待出来ません。

3. 薬剤散布

散布回数 散布時期	10a当たり 散布量	基準薬剤	倍数	1,000 当たりの薬量
第11回目 8月半ば	500	イカズチ(WDG) アリエッティC(水)	1,500倍 800倍	2袋(333g×2) 1袋(1.25kg)
第12回目 8月末	500	ダイパワー(水) オマイト(水)	1,000倍 750倍	1袋(1kg) 1袋(1.34kg)
特別散布 9月中旬	500	ストライド(顆粒水)	1,500倍	2袋(333g×2)

殺ダニ剤の散布について
高温が続く予想となっておりますので、ハダニ類の発生には十分注意しましょう。
予察を必ず行い、ハダニ類の発生状況に応じて、殺ダニ剤を選択するようにしましょう。
殺ダニ剤の選択でお困りの方は、お気軽に営農係へご相談ください！園地へうかがいます。